

# 「理想の姿」別に「問題」を分類した一覧表

1. 委員から意見のあった市民活動及び協働に係る「理想の姿」について、キーワードの共通点を基に第7期答申の分野を参考に分類しました。
2. 3つの「理想の姿」で分類された意見は、「問題」についても第7期答申の分野を基に分類し、①～⑧の問題に分類することができました。
3. どのように分類されたのかについては、次ページ以降をご覧ください。

理想の姿	問 題					分野別意見数
	意見数	キーワード項番 (次ページ以降を参照)	問題の分野	意見数	参照頁	
(1)活動が 持続・発展 する市民 活動・協働	24	2, 5	①参加の促進 (市民活動へ参加する機会の提供)	2	P2	① 参加 (機会) … 6 ② 参加 (モチベーション) … 4 ③ 参加 (活動内容) … 5 ④ 交流促進 … 6 ⑤ 担い手 … 8 ⑥ 理解促進 … 9 ⑦ 安定化 … 8 ⑧ 資金調達 … 3
		3, 4, 6, 29	②参加の促進 (市民活動や協働への参加モチベーションの向上)	4	P3	
		30, 31	③参加の促進 (団体の活動目的や活動内容の明確化・透明化)	2	P4	
		2, 13	④多様な主体の交流の促進	2	P4	
		5, 11, 17, 19, 20	⑤担い手育成	5	P5-6	
		31, 35, 36, 37	⑥理解の促進	4	P6-7	
		17, 19, 25, 26, 27, 38, 39, 40	⑦事業化や事業の安定化	8	P7-9	
		22, 23	⑧資金の調達	2	P9	
(2)多様な主体 が参加・ 交流している 市民活動 ・協働	11	7, 12, 16	①参加の促進 (市民活動へ参加する機会の提供)	3	P10	
		7, 10	③参加の促進 (団体の活動目的や活動内容の明確化・透明化)	2	P11	
		1, 21, 24, 32	④多様な主体の交流の促進	4	P12	
		14, 15	⑤担い手育成	2	P13	
		12, 34	⑥理解の促進	2	P13	
		21	⑧資金の調達	1	P14	
(3)地域課題に 関心を持った 人々を行動へと つなげる市民 活動・協働	5	8	①参加の促進 (市民活動へ参加する機会の提供)	1	P15	
		8	③参加の促進 (団体の活動目的や活動内容の明確化・透明化)	1	P15	
		18	⑤担い手育成	1	P15	
		9, 28, 33	⑥理解の促進	3	P15-16	

※意見は、1つのキーワードで複数の問題分野に重複するものがあるため、理想の姿の意見数と問題の意見数は合致しません。

意見：キーワードの補足として委員が記載したもの

追記：事務局が、委員の意見を深堀するために電話確認し、記載したもの

(1)活動が持続・発展する市民活動・協働

項番	2 (P4に重複)		5 (P5に重複)	
項目	キーワード	意見	キーワード	意見
現状	祇園祭や地蔵盆などの文化、風習を伝える活動（京都の地蔵盆）		世代交代がなかなかできず、活動中心メンバーの高齢化が進む市民活動	新型コロナウイルス感染拡大防止の期間が長く、子どもたちに活動しないと言われていたり、自分自身も活動が困難だと考え活動を控えたりしているということを耳にします。
理想	子ども学生から高齢者まで、その地域の季節にその文化を楽しみながら学び受け継ぐ活動	(追記) ・地域の活性化につながるような市民活動 ・市内外にも誇れることのできる市民活動 (文化的な伝統につながっていく)	各団体の研修を充実させ、意欲的な人材の育成し、活動が持続できる市民活動	ZoomやYou Tubeの活用の仕方と注意すべき点、使い分けの仕方世代交代がうまくいっている団体の活動紹介  (追記) ・時代に即した人材が参加・育成できるような相談環境がある市民活動
問題	地域の祭り（催し）は子供がいないと参加する機会がない	(追記) ・自治会のお祭り ・行政区やステータスに縛られずに、気軽に参加ができる市民活動がない。	ZoomやYou Tubeを活用するなど、今にあった取り組みにも挑戦する意欲・体力のある人材をうまく取り込めていない。	新型コロナウイルス感染拡大防止のための活動休止期間を有効に使う必要がある。各団体内での市民活動の必要性や自己啓発の良さなどについて積極的に発信して活動内容を見直し、必要でない活動をそぎ落とすなど活動を再編成することが必要。 活動が休止になったことにより、「なくても困らない」方向に進んでいる一面も考えられる。  (追記) ・新規参加者を取り込めていない（ネットができる人材）→魅力が伝えられない、やろうと思っても参加の相談機会がない。 ・既存の参加者の時代に即した育成ができていない
問題の分野	①参加の促進（市民活動へ参加する機会の提供） ④多様な主体の交流の促進		①参加の促進（市民活動へ参加する機会の提供） ⑤担い手育成	

3		4		6		29	
キーワード	意見	キーワード	意見	キーワード	意見	キーワード	意見
活動の負担が重い (時間、作業内容など)		活動が持続しない		ある程度認知されても、それ以上踏み出そうとしない市民活動	「仕事でもないのに負の感情が生じることはしたくない」 「自分の人間関係を悪化させてまで人のためにやることはない」	楽しく見えない	
メンバーが多く、負担が分担できる		活動が持続する		社会的に認知され、ミッションに共感して応援してもらえる市民活動	(追記) ・自身の活動に、積極的な取組姿勢を示す市民活動 ・今後の展開が広がっていくような市民活動	リーダーもメンバーも参加者も楽しんでいる	
メンバー不足		モチベーションを持続するための、活動の魅力、ビジョンが不足・あいまい		活動を通じて得られる有形無形のギフトに気づかない	1. 歳をとればとるほど得られる「経験値」でさらに成長できる市民活動があることに気づかない 2. どの年代にも参加する意義を感じられる機会があることに気づかない  (追記) ・活動を拡大することに対するメリットに気づかない	楽しさを見出そうとしていない、見出せない	
②参加の促進（市民活動や協働への参加モチベーションの向上）		②参加の促進（市民活動や協働への参加モチベーションの向上）		②参加の促進（市民活動や協働への参加モチベーションの向上）		②参加の促進（市民活動や協働への参加モチベーションの向上）	

30		31 (P6に重複)		【再掲】2 (P2に重複)		13	
キーワード	意見	キーワード	意見	キーワード	意見	キーワード	意見
注目すべき取組みと なっていない		(市民活動や協働の) 必要性やメリットが共有 されていない		祇園祭や地蔵盆などの文化、 風習を伝える活動 (京都の地蔵盆)		既存概念にとらわれていないか。	自由な発想で多種多様な市民活動を期待しているが、新しいニーズに対応するものが少ない。  (追記) ・目先のことだけでを考えてしか活動をしていない。 ・特に協働
全国レベルの発信力や 先進性がある		(市民活動や協働の) が必要だ・メリットがあるという意識が共有 されている		子ども学生から高齢者まで、その地域の季節にその文化を楽しみながら学び受け継ぐ活動	(追記) ・地域の活性化につながるような市民活動 ・市内外にも誇れることのできる市民活動 (文化的な伝統につながっていく)	市民活動における戦略	スタートは「好きだから」「やりたいから」であっても続けて先に見えてくる姿や方向性を具体化していく。  (追記) ・時代にあった活動を常にできるような市民活動 (発展していく必要はないが、時代に合った活動をすべき)
全国レベルの発信力や 先進性がない	・あるいは、先進性が着目されていない ・全国的な事例とリンクしていない ・取組みの位置付けが明確でない	定義や意義が確立されていない／情報発信がなされていない		地域の祭り(催し)は子供がいないと参加する機会がない	(追記) ・自治会のお祭り ・行政区やステータスに縛られずに、気軽に参加ができる市民活動がない。	持続性、発展性が見受けられない。	他団体との関わりが少なく、1つの団体だけで完結しているように感じる。また、単発的に終わってしまうのは残念である。  (追記) ・団体の活動が閉鎖的で、他の団体との交流ができていない、しようとならない
③参加の促進 (団体の活動目的や活動内容の明確化・透明化ができていない)		③参加の促進 (団体の活動目的や活動内容の明確化・透明化ができていない) ⑥理解の促進		①参加の促進 (市民活動へ参加する機会の提供) ④多様な主体の交流の促進		④多様な主体の交流の促進	

【再掲】5 (P2に重複)	
キーワード	意見
世代交代がなかなかできず、活動中心メンバーの高齢化が進む市民活動	新型コロナウイルス感染拡大防止の期間が長く、子どもたちに活動しないように言われたり、自分自身も活動が困難だと考え活動を控えたりしているということを耳にします。
各団体の研修を充実させ、意欲的な人材の育成し、活動が持続できる市民活動	ZoomやYou Tubeの活用の仕方と注意すべき点、使い分けの仕方世代交代がうまくいっている団体の活動紹介 (追記) ・時代に即した人材が参加・育成できるような相談環境がある市民活動
ZoomやYou Tubeを活用するなど、今にあった取り組みにも挑戦する意欲・体力のある人材をうまく取り込めていない。	新型コロナウイルス感染拡大防止のための活動休止期間を有効に使う必要がある。各団体内での市民活動の必要性や自己啓発の良さなどについて積極的に発信して活動内容を見直し、必要でない活動をそぎ落とすなど活動を再編成することが必要。活動が休止になったことにより、「なくても困らない」方向に進んでいる一面も考えられる。 (追記) ・新規参加者を取り込めていない(ネットができる人材)→魅力が伝えられない、やろうと思っても参加の相談機会がない。 ・既存の参加者の時代に即した育成ができていない
①参加の促進(市民活動へ参加する機会の提供) ⑤担い手育成	

11	
キーワード	意見
メンバー間の活動の方向性のズレ	方向性が一致しないことによる意思決定がうまくいかない、機敏な活動を阻害する。 個人的な方向性によるスタンドプレーにより、違和感を感じるメンバーが離れる
活動のビジョンを共有する	
活動のビジョンの軽視、共有不足	
⑤担い手育成	

17 (P7に重複)	
キーワード	意見
運営の次々世代への継承	
「次々世代は自分が運営する」という意識を持った参加者が多い市民活動	自己財源で運営することは大切ですが、社会における当該市民活動の役割を実感してもらうため、行政機関等外部との活動を企画し、設営等に関わって頂くことも必要と考えます(知っているところでは参加者の負担を考え減らしたところ、一体感を感じる機会が減ってしまったようです)。
・次々世代になると、人によっては、運営に積極的に参加しない。	・活動の目的や理念を確認する機会が少なく、お膳立てされた例会に「自分に役立ちそう」と思ったときに参加しようという参加者が増えている。 ・「目標達成には皆の持てる力を出し合っ運営しなければできない」という一体感を醸成する機会が減っている。  (追記) 次の世代くらいまでなら目的や思いが繋がっているが、さらに次の世代となると、その目的や思いを継続することは難しい。
⑤担い手育成 ⑦事業化や事業の安定化	

意見：キーワードの補足として委員が記載したもの 追記：事務局が、委員の意見を深堀するために電話確認し、記載したもの

19 (P7に重複)		20		【再掲】31 (P4に重複)		35	
キーワード	意見	キーワード	意見	キーワード	意見	キーワード	意見
人材・資金が不足し、ガバナンスが脆弱で継続が難しい団体が多い。	ただ人が集まり何かしたい、では同好会で終わる。それはそれで価値がないわけではないが、人や資金は集まらず、継続は難しい。	経費処理が大変	事業実施にあたって経費処理が必要になるが、不慣れな人がやらざるを得ない状態だと負担感が重く、時間がかかり、活動の阻害要因になりうる	(市民活動や協働の) 必要性やメリットが共有されていない		活動が周囲に評価されない	
しっかりしたガバナンス、それを支える人材、寄付・助成金等の収集能力が高い。	持続可能にするにはガバナンスの強化が必要。それには、人材・資金が不可決。人集めでも、寄付や助成金等の資金集めにしても、恣意的活動では集まらない。普遍的価値を有する理念が必要。  (追記) 持続可能な活動にするために、後継者の育成、組織力強化、指導力が必要。	経費処理のための簡単なアプリがある/専門家の派遣がある		(市民活動や協働の) が必要だ・メリットがあるという意識が共有されている		活動が周囲に高く評価される	
「理念」を明確にし、それが社会貢献に資するよう洗練させていく。	活動理念は多様であっていいが、それが社会貢献に資するよう加筆訂正しながら磨きをかけ、多くが賛同できるものに育てていく必要がある。  (追記) ・社会に役立つ活動でないといけない。 ・理念を決めておくと活動がブレず、継続に繋がる。	経費処理に関するサポートがない		定義や意義が確立されていない/情報発信がなされていない		活動の価値が共有されていない	
⑤担い手育成 ⑦事業化や事業の安定化		⑤担い手育成		③参加の促進 (団体の活動目的や活動内容の明確化・透明化ができていない) ⑥理解の促進		⑥理解の促進	

36		37		【再掲】17 (P5に重複)		【再掲】19 (P6に重複)	
キーワード	意見	キーワード	意見	キーワード	意見	キーワード	意見
活動に誇りが持てない		カッコよくない		運営の次々世代への継承		人材・資金が不足し、ガバナンスが脆弱で継続が難しい団体が多い。	ただ人が集まり何かしたい、では同好会で終わる。それはそれで価値がないわけではないが、人や資金は集まらず、継続は難しい。
誇りを持って活動する		活動のイメージが洗練されている		「次々世代は自分達が運営する」という意識を持った参加者が多い市民活動	自己財源で運営することは大切ですが、社会における当該市民活動の役割を実感してもらうため、行政機関等外部との活動を企画し、設営等に関わって頂くことも必要と考えます（知っているところでは参加者の負担を考え減らしたところ、一体感を感じる機会が減ってしまったようです）。	しっかりしたガバナンス、それを支える人材、寄付・助成金等の収集能力が高い。	持続可能にするにはガバナンスの強化が必要。それには、人材・資金が不可欠。人集めでも、寄付や助成金等の資金集めにしても、恣意的活動では集まらない。普遍的価値を有する理念が必要。  (追記) 持続可能な活動にするために、後継者の育成、組織力強化、指導力が必要。
活動の意味や意義が十分に共有されていない		行政が関わることによる洗練されていない感じがある		・次々世代になると、人によって、運営に積極的に参加しない。  ・活動の目的や理念を確認する機会が少なく、お膳立てされた例会に「自分に役立ちそう」と思ったときに参加しようという参加者が増えている。  ・「目標達成には皆の持てる力を出し合っ運営しなければできない」という一体感を醸成する機会が減っている。  (追記) 次の世代くらいまでなら目的や思いが繋がっているが、さらに次の世代となると、その目的や思いを継続することは難しい。		「理念」を明確にし、それが社会貢献に資するよう洗練させていく。	活動理念は多様であっていいが、それが社会貢献に資するよう加筆訂正しながら磨きをかけ、多くが賛同できるものに育てていく必要がある。  (追記) ・社会に役立つ活動でないといけない。 ・理念を決めておく活動がブレず、継続に繋がる。
⑥理解の促進		⑥理解の促進		⑤担い手育成 ⑦事業化や事業の安定化		⑤担い手育成 ⑦事業化や事業の安定化	

25		26		27	
キーワード	意見	キーワード	意見	キーワード	意見
コロナ禍によって対面での活動が難しくなった。	対面で活動をおこなわなければならない市民活動団体もあるが、コロナ禍によって難しくなっている。 加えて、対面で話すことが少なくなることによって団体の継続性や団結力が低くなっている。 また、コミュニケーションツール（ITの活用）に団体ごとの差が存在する。	SDGsに無関心な市民活動	「なにそれ、おいしいの？」  (追記) ・世界の共通指標なのに、分からない人が多い	インターネットの活用	コロナ禍で注目され普及し始めたオンライン会議システム、および既存のウェブサイトやSNSなどには、市民活動にかかわる大きな可能性がある。単に情報の受発信ということだけでなく、フルタイムでの勤務者や障害を持つ人、家族の事情など様々な制約により、心ならずも排除してきた人々を活動に取り込む可能性がある。
対面に代替されるコミュニケーションの仕組みが団体に存在すること。	感染症の蔓延が改善されればこれまで通りにコミュニケーションを取ることができ、見通しは難しいため、代替できるコミュニケーション方法が団体ごとに存在すると良い。また、コロナ禍でも活動が円滑に進んでいるモデルケースを作っていくことで、その他の団体に広げていけると良い。  (追記) 団体ごとにオンラインなどそれ	SDGsを意識したミッションを掲げる市民活動	(追記) ・ワールドワイドな指標で、自分たちの活動がどうあるべきか考えることができる市民活動 ・時代に即した取組ができる市民活動	インターネット活用に より団体を活性化し、より多くの人に届く活動を展開する	市役所から「市民活動に特化したインターネット活用相談」を提供してはどうか。団体のこれまでの活動やミッションと、直近の地域と社会の状況を照らし合わせて見直す「棚卸し」と、その内容に合わせたオンライン活用の方法についての「提案」ができれば、団体にとっては大きなサポートになり得る。  (追記) 寄附を集めることも大事である（クラウドファンディングやChange.orgなどのプラットフォームも出来てきている）。
コロナ禍によってコミュニケーションが持続的におこなえていない。	特に、活動範囲が広域で大規模の団体になればなるほど対面でのコミュニケーションがしにくい。さらに、オンライン会議ツールなどの活用も大規模になると運用が難しく、参加者のITリテラシーにも左右されることもある。	目先の問題ばかりを注視し、今後の活動方針を広い視野で決められない	1. そもそもSDGsを知らない 2. SDGsを自分たちの行動指針の道標とすることができない  (追記) ・狭い視点でしか考えられず、今の時代に即した活動ができていない	インターネット活用の事例やノウハウの提供	すでに使いこなしている団体もあるが、着手できていない団体は、情報不足や苦手感によりどこから手をつけていいかわからない。単発の講座などでは、タイミングやレベルが合わないなど、効果的な助けになりにくい。
⑦事業化や事業の安定化		⑦事業化や事業の安定化		⑦事業化や事業の安定化	



38		39		40		22		23	
キーワード	意見	キーワード	意見	キーワード	意見	キーワード	意見	キーワード	意見
行政内における協働の位置付けが曖昧		協働において行政の積極性がない		充実感が見えない		市民活動及びさいたま市との協働事業を実施する上でのより多くの各種収入を確保するノウハウなどを知らないでいる事業者が多い。		事業収入がなく、助成金・補助金が得られないと活動が困難になる市民活動	
行政内における協働の位置付けが明確である		行政が協働に積極的に取組む		充実感があり、関係者がやりがいを感じる		会費収入等以外でも補助金や支援金等の公的な収入の獲得ノウハウを、獲得している市民活動団体と市が協働で、希望する市民活動団体にそのノウハウを教授する。	文化芸術等の社会教育活動、社会・福祉活動、青少年健全育成活動、防火・防災、交通安全、自治会等の地域社会活動など有益かつ持続可能で、豊かな地域社会の構築に役立つ内容の市民活動を支えるための各種収入の獲得を優れた方法で行い、運営している市民活動団体と市が協働で、希望する市民活動団体にそのノウハウを教授する。	事業収入を継続して得られる市民活動	
行政内の取組みが不足している		行政の協働への無理解、取組み体制が確立していない		無理のない目標が明確でない		会費収入等以外の公的な各種収入をより多く獲得できない。	持続可能で豊かな地域社会の構築に役立つ内容の市民活動が、会費収入等以外にも補助金や支援金等の公的な収入が獲得できるにも関わらず、そのノウハウなどを知らないため獲得ができず、事業断念または規模を縮小せざるを得ない。	事業収入を得るための情報を知らない	1. 安価な労働力とされている（使う方も使われる方も） 2. 市民活動は収入を得てはいけないと思っている 3. 収入を得るための情報を収集できないまたは収集しようとしにくい
⑦事業化や事業の安定化		⑦事業化や事業の安定化		⑦事業化や事業の安定化		⑧資金の調達		⑧資金の調達	

(2)多様な主体が参加・交流している市民活動・協働

項番	7 (P11に重複)		12 (P13に重複)		16	
項目	キーワード	意見	キーワード	意見	キーワード	意見
現状	圧倒的に市民活動をしている人の高齢化が進んでいる	世代間のギャップが大きい	理念・継続・自立など難しいことを考えず、市民が主体で、市民が活動できる場が多く出来る（思い付きでもそれを行動に移すことが大切）	市民の発想でその市民が活動に一步踏み出せるきっかけと1年1年の積み重ねが継続に繋がる仕組みがあると、より多くの市民活動の担い手が手を挙げ、市民活動家として成長できるのではないかと。	地域の各諸団体との連携と協力し合う	
理想	世代に関わらず、多くの人に関われる市民活動が出来ている		身近な地域課題・社会課題の地域（自治会や学校など）で共有し、優先順位をつけ、実行していくための場づくり	具体的には、地域の公園の自治会や地元有志が行政と連携しての管理・運営など  (追記) ・多様な主体と交流する市民活動	地域社会の事業として方向になるように	個々の組織では水平展開できないので地域ぐるみが必要  (追記) ・多様な主体が交流できる市民活動
問題	若い人を市民活動に巻き込めていない	・コミュニケーションギャップ（LINEを使っているコミュニケーションなど） ・活動時間（平日は難しいvs平日にも時間がある）  (追記) ・時代に即した参加形態や情報発信ができていない ・ターゲットとする人材合った情報発信ができていない	身近な地域課題・社会課題を市民活動により解決するという考えが市民にも行政にも企業にも足りないのではないかと	身近な地域課題・社会課題を市民が共有し、市民活動により解決していくという手段を学校教育や自治会活動などの中に広げていき、地域の力として根付けないか、可能性はあると考えているが出来ていないような気がする  (追記) ・身近なところで気軽に参加できる市民活動がない	幅広い年齢の人材で構成するのが良いが、若い人の意識が薄く、高齢者が多く、活動の継承が難しい	(追記) ・若い世代が参加するような取組ができていない
問題の分野	①参加の促進（市民活動へ参加する機会の提供） ③参加の促進（団体の活動目的や活動内容の明確化・透明化）		①参加の促進（市民活動へ参加する機会の提供） ⑥理解の促進		①参加の促進（市民活動へ参加する機会の提供）	

意見：キーワードの補足として委員が記載したもの 追記：事務局が、委員の意見を深掘するために電話確認し、記載したもの

【再掲】7 (P10に重複)		10	
キーワード	意見	キーワード	意見
圧倒的に市民活動をしている人の高齢化が進んでいる	世代間のギャップが大きい	活動を継続させるための人材の確保が難しい 市民活動	(追記) ・商店街活動で、高齢化、後継者不足といった話をよく聞く
世代に関わらず、多くの人に関われる市民活動が出来ている		様々な課題解決に向けた他団体並びに地域連携による市民活動	(追記) ・似たような活動同士の交流の促進
若い人を市民活動に巻き込めていない	・コミュニケーションギャップ (LINEを使っているコミュニケーションなど) ・活動時間 (平日は難しい vs 平日にも時間がある)  (追記) ・時代に即した参加形態や情報発信ができていない ・ターゲットとする人材合った情報発信ができていない	活動内容の周知不足等により会員の規模が拡大していかない	
①参加の促進 (市民活動へ参加する機会の提供) ③参加の促進 (団体の活動目的や活動内容の明確化・透明化)		③参加の促進 (団体の活動目的や活動内容の明確化・透明化)	

1	
キーワード	意見
新参者が入れる雰囲気ではない（新規参加の難しさ、後から入ってきた人とスタートメンバーの関係、サークル閉鎖的、柱がない、理念がな	地域の高齢者や代々住み続ける人、子どもがいる人、母体となる事業者と関係のある人など、属性が限られている、さらにそのメンバーの利益追求の活動（なのだろう）と感じて入るモチベーションがわからない。
エリア、年齢、特定の1事業体などのくくりではなく”課題テーマ”を前面にした活動	〇〇地区、〇〇小学校、〇〇商店街などでくられたコミュニティでは、入りづらい人、当事者意識がわからない人は多い。技術でつながりやすい世の中、しかもさいたま市内であればエリアや行政地区などもっとオープンな広がり可能性を取り入れては。  (追記) ・行政区に縛られずに、市内外の市民が参加したいと思うような市民活動
地区、行政区など既存の枠組みを超え、課題テーマで参加したいと思える活動が少ない	(追記) ・自治会を想定。 ・行政区で縛られた活動発信が多く、その活動内容に焦点があてられた情報発信がない。 ・多様な主体が参加したいと思えるような情報発信ができていない
④多様な主体の交流の促進	

21 (P14に重複)	
キーワード	意見
行政の目的とその目的を実現する手段が目的化してしまふことにより、本来の活動理念から外れることがある	例えばある文化活動の魅力を高める事業をする場合、その事業が成功するために努力していくうちに、その事業の採算や参加者の好みに迎合して、本来の目的の実現から離れてしまうことがある。
異なる種類の活動団体が地域コミュニティを形成すること	現在活発な活動を実践している団体が多いが、異なる活動領域の交流、情報の流れがなく、地域内での連携が取れるシステム作りがあるとよい（行政の関与が必要）  (追記) 異なる集団・団体同士で意見交流をする場が少ない。違う分野・業種でお互いが活用できると団体活動全体の活性化になる。
活動に必要な自主財源不足	例えば行政の支援だけをあてにしている、支援が途切れれば、事業ができなくなるとは真の市民活動とはならない  (追記) 行政の助成金頼りの市民活動団体も多い。助成金がなくなったら事業ができなくなるのは好ましくない。
④多様な主体の交流の促進 ⑧資金の調達	

24	
キーワード	意見
個別課題に特化し、かつ閉鎖的なコミュニティ組織が多い。	
課題解決を目的としつつ、「解決」にこだわらない。そのプロセスで見えてきた課題を共有する関係・ネットワークづくりを重視した市民活動。	個別の課題（ニーズ）に真剣に向き合ったら、必ず別の課題が見えてきます。SDGsの取り組みも、出発点は17の目標の何か一つの項目かもしれませんが、実際に活動を始めたら他の項目も密接に関連した課題であることが見えてきます。その課題の連関への気づきを促すうえでも、地域のつながりを生み出す支援が求められているように思います。
・個別に良いことはやっているが、他の活動とつながりながら、共に持続可能で活力ある地域づくりに取り組むといった視点が希薄。 (追記) ・情報を収集したり周知したりするインターネット上のコミュニティが形成されていない	・コロナ禍で市民活動のコミュニティをどう形成するかが課題。 ネット上で気軽に交流できるポータルサイトが必要だが、それを制作・維持管理する組織がない。行政と市民活動団体が協働で管理運営している他市の例があればそこから学習して早急に予算をつけたい。
④多様な主体の交流の促進	

32	
キーワード	意見
自治会役員等に入権感覚が乏しく、新規参入や現在の地域課題に対応できない。	
地域の多様な人々が当たり前に参加し活動できる活動	地域に様々な属性の人々が共に暮らしていること、皆おなじく人権を守られるべき存在であることが、当たり前前に共有されている状態。異なる人々がメンバーになることで、社会の変化に対応し、現実のニーズに合った活動ができる。
自分たちと異なる属性の人が対等な存在であることを想定していない。	自治会や地域防災等、年配の男性が多い活動に、女性・若年者・性的少数者・外国人・障害者等が入ろうとするとき、最初に出会う人々である既存メンバー（役員）からの人権を傷つけられるような言動をによって、加入・継続の意欲を失う事態が起きている。
④多様な主体の交流の促進	

14		15		【再掲】12 (P10に重複)		34	
キーワード	意見	キーワード	意見	キーワード	意見	キーワード	意見
活動をするメンバーが どんどん減っていく市 民活動	1. 名ばかりのメンバーが名を連ね て、実際に行動するメンバーが 減っていく 2. 参加を希望する人に自分たちの ルールを強要する	ヒエラルキーに囚われ て、リーダーの思いが 正義となる市民活動		理念・継続・自立など 難しいことを考えず、 市民が主体で、市民が 活動できる場が多く出 来ることが重要と考 える（思い付きでもそれ を行動に移すことが大 切)	市民の発想でその市民が活動 に一步踏み出せるきっかけと 1年1年の積み重ねが継続に 繋がる仕組みがあると、より 多くの市民活動の担い手が手 を挙げ、市民活動家として成 長できるのではない。	さまざまな制約で袋小路 に追い込まれる市民活動	「市民活動とはなにかー これは市民活動なのか」 ということに拘りすぎ て、可能性を失ってい く。特に企業と協働する 場合に厳しい目で見られ る。
多様な参加者がいる市 民活動	1. 多様な人材(性別・年齢・人種 など) 2. 多様な参加のしかた(行動・寄 付・ICTなど) 3. 多様な参加理由(自己実現・社 会貢献など)  (追記) ・これが1番重要 ・様々な人、参加形態であっ ても、対等な立場としてそれぞれ認 め合い、参加できる市民活動	対話を通じて意思決定 を行う市民活動	誰か一人の意見に収束させる ことが意思決定ではない。対 等な関係で話し合うことで集 合知がもたらされ、よりよい 意思決定ができる。  (追記) ・どんな人であっても、対等 な立場での参加を認める手法	身近な地域課題・社会 課題の地域（自治会や 学校など）で共有し、 優先順位をつけ、実行 していくための場づく り	具体的には、地域の公園の自 治会や地元有志が行政と連携 しての管理・運営など  (追記) ・多様な主体と交流する市民 活動	さまざまな主体が自由 に参加できる市民活動	組織の違いを越えて、個 人個人が対等の立場で話 し合うことで社会課題を 解決しようとする
異質なものを嫌い、多 様性を受け入れようと しない	1. ヒエラルキーに縛られている 2. メンバー全員が「同じ考えであ る必要はない」ことに気づかない  (追記) ・参加回数が多い人等、固定の人 の声が大きく、メンバーの考えを 対等に聞きあう環境ができていな い	・柔軟な意思決定のし くみを受け入れること ができない (追記) ・縦型のヒエラルキー よりも横型につながる 意識をメンバー各人が 持つことがない	(追記) ・多様性・柔軟性を認められ ない組織の仕組み ・市民活動組織が大きくなれ ばなるほど定款やそれを補完 する規則などを作成周知する ことが運営を良くすること となる。ただし、作成に当たっ ては、十分な話し合い等によ る構成員の合意が必要。	身近な地域課題・社会 課題を市民活動により 解決するという考えが 市民にも行政にも企業 にも足りないのではない か	身近な地域課題・社会課題を 市民が共有し、市民活動によ り解決していくという手段を 中に広げていき、地域の力と して根付けていけないか、可 能性はあると考えているが 出ていないような気がする  (追記) ・身近なところで気軽に参加 できる市民活動がない	組織形態の多様化に行政 や市民が対応できていな い	今は行政・市民活動団 体・企業・学校などが協 働して社会課題に取り組 んでいく必要があるの に、それぞれの組織形 態の違いを許容できずに実 現できない
⑤担い手育成		⑤担い手育成		①参加の促進（市民活動へ参加する機会の提供） ⑥理解の促進		⑥理解の促進	

意見：キーワードの補足として委員が記載したもの 追記：事務局が、委員の意見を深掘するために電話確認し、記載したもの

【再掲】21 (P12に重複)	
キーワード	意見
行政の目的とその目的を実現する手段が目的化してしまうことにより、本来の活動理念から外れることがある	例えばある文化活動の魅力を高める事業をする場合、その事業が成功するために努力していくうちに、その事業の採算や参加者の好みに迎合して、本来の目的の実現から離れてしまうことがある。
異なる種類の活動団体が地域コミュニティを形成すること	現在活発な活動を実践している団体が多いが、異なる活動領域の交流、情報の流れがなく、地域内での連携が取れるシステム作りがあるとよい（行政の関与が必要）  （追記）異なる集団・団体同士で意見交流をする場が少ない。違う分野・業種でお互いが活用できると団体活動全体の活性化になる。
活動に必要な自主財源不足	例えば行政の支援だけをあてにしている、支援が途切れれば、事業ができなくなっては真の市民活動とはならない  （追記）行政の助成金頼りの市民活動団体も多い。助成金がなくなったら事業ができなくなるのは好ましくない。
④多様な主体の交流の促進 ⑧資金の調達	

(3)地域課題に関心を持った人々を行動へとつなげる市民活動・協働

項番	8		18		9	
項目	キーワード	意見	キーワード	意見	キーワード	意見
現状	活動の周知	素晴らしい活動をしている団体は多くあると感じるが、「その内容を知らせてもらう活動」ができていないのではないかと。	良い関係性ができない仕組み	思い先攻も大切ではあるが、計画的・戦略的に仕組みをつくってから実行することも大切	良い活動をしているのに、あまり知られていない	広報誌を読むと素晴らしい活動をしている団体があるが、一般的に知られていない
理想	知ってもらいたい団体とその知りたい人を結びつけることのできる市民活動		時代や地域が変化する中改めて個々の市民活動団体が地域、市民に必要とされる活動に向かう	市民の目線に立ち、困りごとや課題がどのように顕在化しており、市民側の目線ではどのような解決や対策が求められているのかを確認する。そこに必要な解決策、活動をしっかりと団体として議論し、適切な解決策の実施に向けた仕組み、活動内容を計画立てをして実施していく。	自分の地域で行われている活動を市民の皆さんが知っている	そもそも知られていなければ、参加したり応援したりはできないので、まずは知ってもらう事が大切
問題	「知ってもらう方法」と「知ってもらう場所」が少ない	公民館等を利用したくても利用できない。また、利用しても団体の広報活動を全団体ができるわけではない。  (追記) ・気軽に「活動できる場」と「情報発信をする場」がない	定款や設立理念、目的が適切に果たされていない	前提として市民活動団体としての理念やミッションが地域や市民にとって求められる活動であるかが重要。自分たちだけの勝手な「やりたいこと」「自分たちのための理念、目的」になっていないことは要確認。	PR活動に長けている人の関わりが少ない	(追記) ・ターゲットとする人材に合った情報発信ができていない
問題の分野	①参加の促進（市民活動へ参加する機会の提供） ③参加の促進（団体の活動目的や活動内容の明確化・透明化）		⑤担い手育成		⑥理解の促進	

28	
キーワード	意見
"市民活動"は行政用語?"市民活動"に参加したい人はいない。(市民活動に定義はない、市民活動という意識がない、市民活動って何?くくりがわからない)	市民が生きづらさ、課題を実感し自ら自発的にモチベーションに動かされて行うものが結果市民活動とまとめられるのだから、"市民活動"に参加しよう、推進しようという言葉を見直す必要があるのでは。
課題・テーマありき。市民が課題に気づき、参加し、活動しやすいように行政・専門家後方支援に徹する活動	行政に求められているのは場の提供、広報(情報提供)、法や制度などの専門知識やアドバイス、教育提供、運営資金援助とほぼ決まっている気がしています。  (追記) ・市民活動が、もっと気軽に、地域にとって必要なものということが市民の間で共通認識としてある状態。 ・上記の行政の役割はそのための対応策。
行政の役割、取り組み方のスキームがニーズに合っていない	(追記) ・"市民活動"はもっと気軽なもの、必要なものという理解ができていない
⑥理解の促進	

33	
キーワード	意見
"市民活動"というワードは数居が高い?	
趣味を市民活動に生かす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ、園芸、絵画等の創作から料理など全国に趣味のサークルは数えきれないほどあり、いきいきと活動している。</li> <li>・その大半は趣味を楽しみ仲間と交流して生活をエンジョイしているが市民活動とか社会貢献とかの意識はそう高くない。</li> <li>・趣味の世界だから会費が高くても満足しており安定した財源を持っていて、何かやろうとすれば協力して実現できる。</li> <li>・ただ、市民活動としてこうしたいとすると一歩下がって消極的になりやすい。</li> <li>・問題は、その趣味自体が「文化活動」とかに認識してもらうだけで意識は変わる。</li> <li>・例えば、そば打ちをしている人に、「あなたが好きなそば打ちをしていること自体が日本のそば文化の継承に貢献しているのです。仲間と共にそば食文化の発展に力を合わせましょう」と。そのほか絵画は芸術、茶道は文化などNPO法の20の分野にほとんど当てはまる。</li> <li>・趣味の団体でも意識が高まると、より上を目指し、自分たちの趣味の世界にも地球環境問題など身近に感じるようになり、SDGsへの取組みなども自然に受け入れられるようになるのではないかと。</li> <li>・さいたま市にも数えきれないほどの趣味の団体があります。</li> <li>・市民活動の代表的携帯としてNPO法人化があります。さいたま市のNPO法人はどのくらいの数か調べていませんが、多くの趣味の団体が自然とNPO法人へ、そして自然と「市民活動」へ入ってくる環境を創れればと思います。</li> </ul>
趣味の世界と市民活動(市民活動をするためにNPO法人設立ではなく)	市民活動というと往々にして「義務的な活動」ととられる傾向が多い。逆に「市民活動に参加するにはどうしたらいいのですか?」と問われることになり、ある分野を紹介することで意識の高い人は積極的に参加するかもしれないが、参加しても直ぐ離れてしまうことが多い。
⑥理解の促進	